



(1) 完成せる築地本願寺正面全景。

築地本願寺復興建築概要

徳 岡 鼎

大正12年の大震災で倒れ、昭和6年5月から復興工事にかゝつてゐた東京築地本願寺の本堂は昨年竣工し、四月二十一日から三日間に涉つて盛大な落成慶讃法要が営まれた。

この建築に就ては既に本誌の昭和7年12月號と昭和8年10月號の二回に報導したところであるが、設計及施工の手法に就て極めて特異性に富む建築なので、こゝに改めて完成後の全容を傳へることにした。本稿に就てこの建築の主任技師であつた徳岡鼎氏と施工者たる松井組の奥山氏から格別の御便宜を與へられたことを特に附記する。尙平面圖其他は誌面の都合上割愛するの止むを得なかつた。本誌上記二號を参照下されば幸甚である。

因に庭園及廻りの塀はまだ施工されてゐないが、これ等全部の完成は本年夏頃と見られてゐる。

建 築 概 要

位 置・東京市京橋區築地三丁目一番地

敷地面積・5,920坪

建築面積・1,961坪

内 譯・地階70坪、一階930坪、二階930坪、
ペントハウス8坪、塔屋23坪。

間 口・正面總間口48間2尺

奥 行・31間

高 さ・本堂の尖塔頂まで114尺、本堂棟
高96尺、兩翼尖塔頂まで78尺4寸、兩翼バ

ラベラット天端36尺5寸。

建築様式・外観は印度佛教式、古代中天竺に行はれたる様式を基礎として適宜に換骨奪胎し、且つ後期印度式を加味したもの、細部には瓜哇のゴロ、ブドル其他印度系の地方の手法を適用。

内部は本堂内部が純日本式、その他は適宜に他の様式を攝取。

建物用途・地階は電気室、機關室、石炭庫、倉庫、浴室等に充つ。
一階は下足室、階段室、應接室、事務室、食堂、調理室、重役室、小使室、宿直室、湯沸場、地方青年宿泊所、地方僧侶宿泊所、佛飯所、花賣所、納骨堂、讀書室、書庫、日曜學校、小會議室、説教所、控室、喫煙室、便所、洗面所、納戸、倉庫、リフト室等を使用。

二階は向拜、階段室、大本堂、志納所、茶所、喫煙室、大會議室、議長室、詰所、議員控室、貴賓室、豫備室、應接室、便所、洗面所等。

塔屋は右が鼓樓で左が鐘樓である。

基礎・地下8尺を總掘し各柱下鐵筋コンクリート杭長1尺を打込み、岩盤に達せしめ、其上に鐵筋コンクリートの基礎を築造し、繫梁を以て全部を連結す。

主體構造・本堂及兩塔屋並に大會議室は鐵骨鐵筋コンクリート造にして其他は全部鐵筋コンクリート造。

外部仕上・正面其他各出入口階段石は岡山縣產萬成岩。

正面及兩側面の一部蛇腹以下は岡山縣產鬼赤石積とし、其他外部壁面は鬼赤石の碎石を以て擬石小叩及ビシヤン叩き仕上とし、

(2) 築地川を距て、望む築地本願寺背面全景。



本堂大屋根ドーム兩妻軒蛇腹は同材料にて人造洗出仕上げ。

向拜、兩翼正面玄関等の屋根及ドームは銅板葺きとし、其他屋上はアスファルト防水工事の上クリンカータイル敷。

出入口及窓建具・全部スチール製で、向拜出入口はブロンズ仕上げとし、金鍍金の裝飾金具を取付け、他は窓出入口と、ベンキ又はエナメル塗仕上げ。但し一部日本間に限り木製建具を使用。

内部仕上・(1)中央部大本堂 外陣及鞘の間(231坪)は天井高34尺、床はNS床及ゴムタイル市松張、周圍ホーダー人造石研出とし座席は椅子式で774の特許壽式連結椅子を取付く。鞘の間は巾木テラゾ張とし腰高5

尺通り鑄鐵製ブロンズ仕上げの上にチークの木目塗を施し木製腰羽目の如くになす。各側柱及裸柱は根巻高6尺を鑄鐵製ブロンズ仕上げとし一部電鍍グリル嵌込とす。天井は折上格天井とし組物彫刻等凡て檜白木造り要所金鍍金々具打、格間はホシテツクス及ケンテツクス張着色仕上。臺股彫刻は六十餘種類の花鳥、動物等にして悉く構圖を異にす。柱虹梁及壁地はコンクリートにしてネールクリート色仕上。

柵内(63.5坪)は疊敷とし其他凡て外陣と同様の仕上げとす。

内陣及餘間(70坪)内陣は床拭板張漆呂色塗仕上、餘間は疊敷。柱、虹梁、壁はコンクリート造とし、各長押及天井は繪造。柱及

(3) 本堂正面階段の高麗狗。



(4) 同。





(5) 向拜正面。



(6) 鞘の間。

長押並壁地は漆下地に金箔押しとし、釘隠其他金具は金鍍金製とす。虹梁及各組物蔀股等は漆下地極彩色仕上。天井は折上格天井で漆呂色仕上、面金箔押し、格間は檜ベニヤ板極彩色仕上。内陣正面 卷障子金箔押し餘間は金襖建とし上部唐狹及天人窓股は箔押しとす。

御簾の間香房(19坪)床疊敷、柱及壁ネイルクリート仕上、天井は平格天井檜造。

後堂(45.8坪)は床板張、壁及天井ネイルクリート仕上。

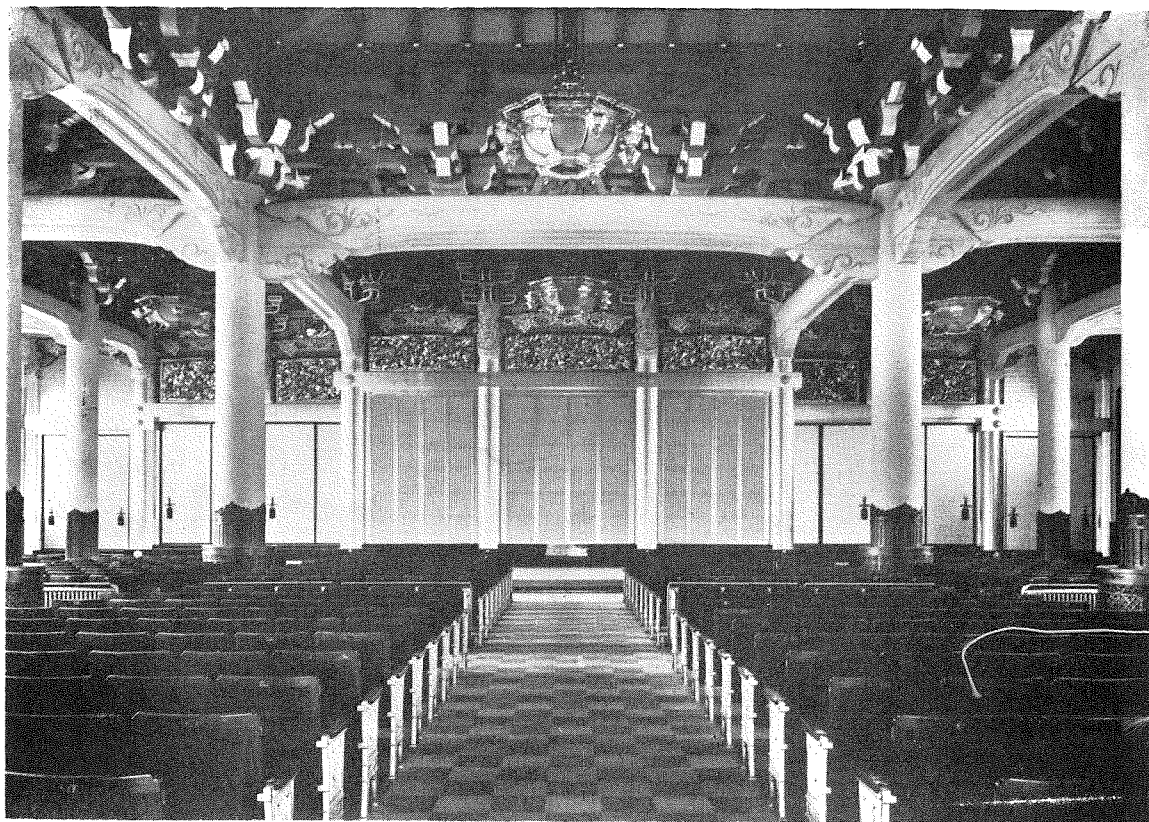
(2)左翼説教所(70坪)は床疊敷、柱及壁は萬年壁着色、天井平格天井タメ色面金仕上、格間はケラツクス着色とす。各柱上部及梁持送りは石膏及砲金製金粉スプレー仕上とし持送りの一部に電燈を装置す。説

教所の佛間は本堂内陣に準し漆呂色仕上及箔押しとす。

(3)大會議室(70坪)床はリノリウム敷、議席及傍聴席は階段形床とし圓形連席椅子を取付く。壁地はケンピス仕上、天井は石膏格天井とし格間ケンテツクス張ベンキ塗仕上けとす。

(4)其他一般各室 床疊敷(80坪)寄木張(28坪)タイル貼(135坪)リノリウム(320坪)フロアリウム(36坪)ラバリウム(1坪)其他の部屋及廊下は人造砥出。腰は板張、ケンピス、漆喰等。壁は壁紙、ラフテール、漆喰等、天井漆喰ラフテール等とす。

附帯設備・鐘樓及鼓樓 右翼塔屋を鼓樓に左翼塔屋を鐘樓とし、鐘木は電氣装置にし一



(7) 本堂外陣・座席は壽式連絡椅子にて774人を收容す。

階設教所内のスイッチにより操作をなすものとせり。

リフト設備 本堂外陣に於て一階リフト室より手働式装置に依り棺の昇降をなす様設備す。

納骨堂 本堂内陣下に之を設け本堂の背面より参拜せしむ。周囲は堅牢なる鐵骨鐵筋コンクリート造壁體を巡らし、出入口は二重扉により盜難防火に備ふ。換氣は4本の徑4寸丸換氣管を以て行ひ、内部には鐵製の納骨房を配置す。

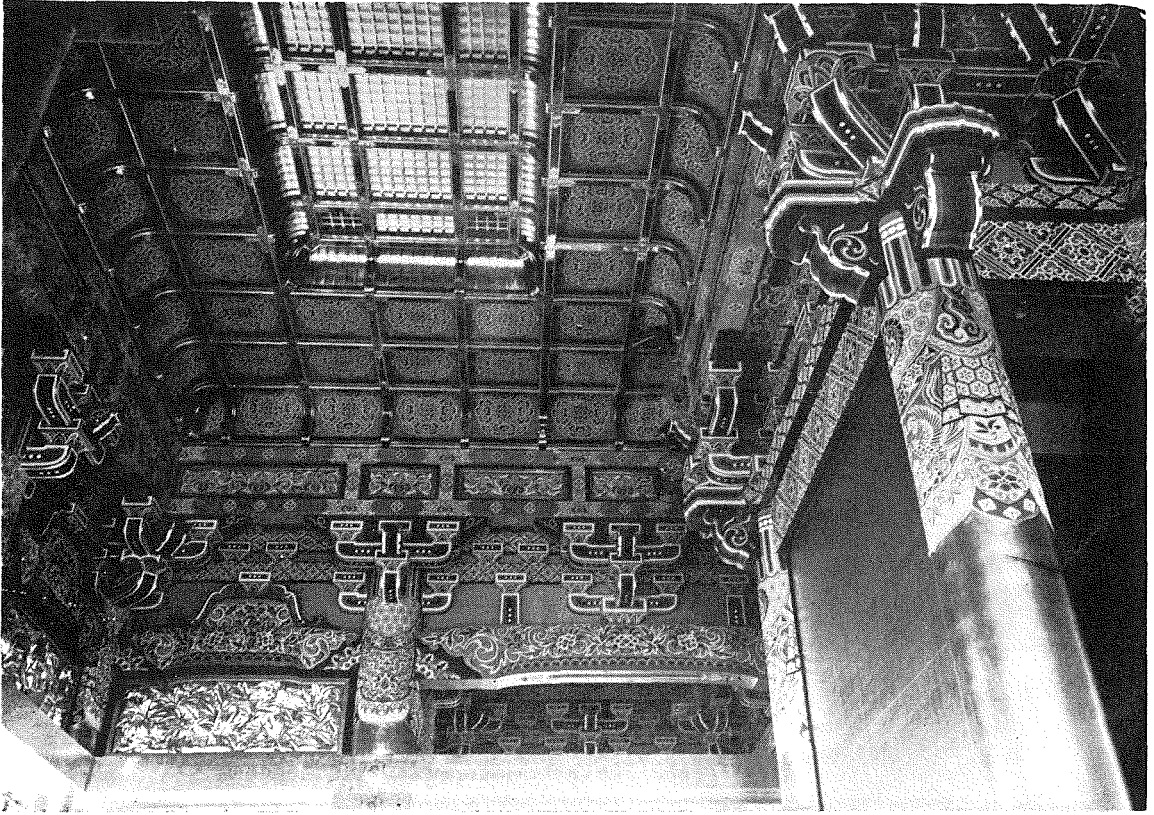
電氣工事 外線は右翼側面より變壓せるものをケーブルによりて引込み、之を配電盤

により、右翼、本堂、左翼の3大系統に分ち、更に分電盤に依り要所に分電し各室個々にスイッチを備へ、隨時點滅し得る設計なり。配線は總て第4種線を用ひチューブによりコンクリート内に埋設す。

燠房工事 機關室は右翼棟地下室に設け、燠房用機關、ポンプ、電動機等を設備し、其配管は夫々其室の用途により、主として晝間用と晝夜連續用の二大別系統に分つ。

衛生工事 本設備は全部水洗式とし鑄鐵管を以て一括し市設大下水道に自然放流す。

防火設備 市設水道により屋上水槽に貯水したるものを平時は各室への給水に充て、



(8) 本堂内陣天井及欄間附近。天井檜造極彩色仕上・虹梁及葦朧各組物漆下地極彩色。

非常時にはスイッチの切替によりポンプを以て消火栓に強大なる圧力を加ふるものとす。消火栓は8個所に設置し、各100尺のコースを備ふ。

避雷針 本堂棟飾を利用して3個所、兩翼塔屋尖端に各1ヶ所宛合計5本建、總て導線により中庭の地中に導く。

工程其他・工程 昭和六年四月十五日着工、假本堂移轉及準備工事。

昭和六年七月二十九日 地鎮祭

昭和六年十月二十一日 起工式

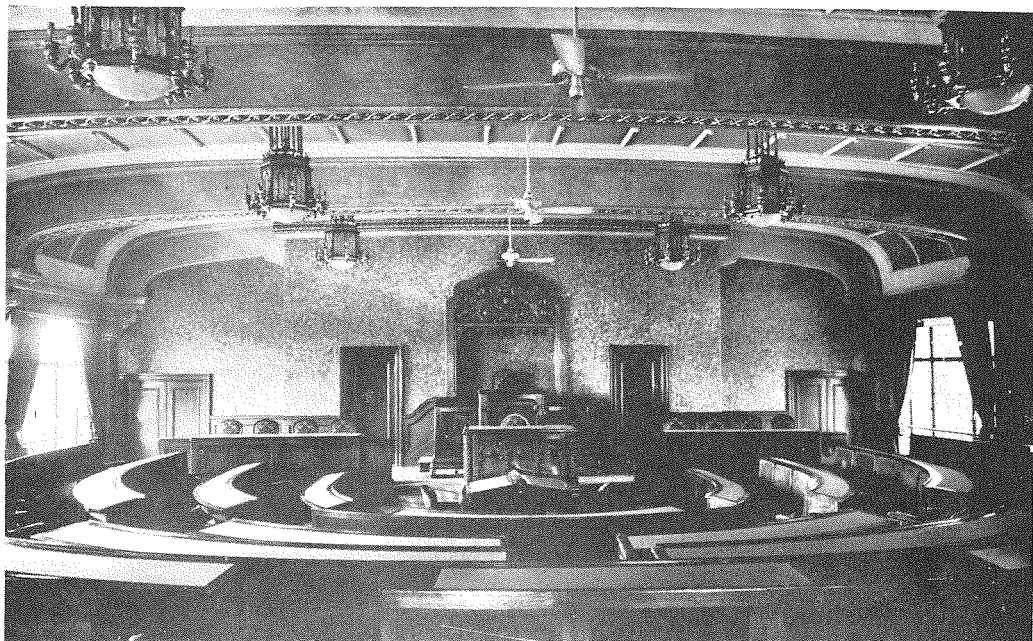
昭和九年六月二十五日 竣工

工事設計及施工

設計 工学博士 伊東忠太

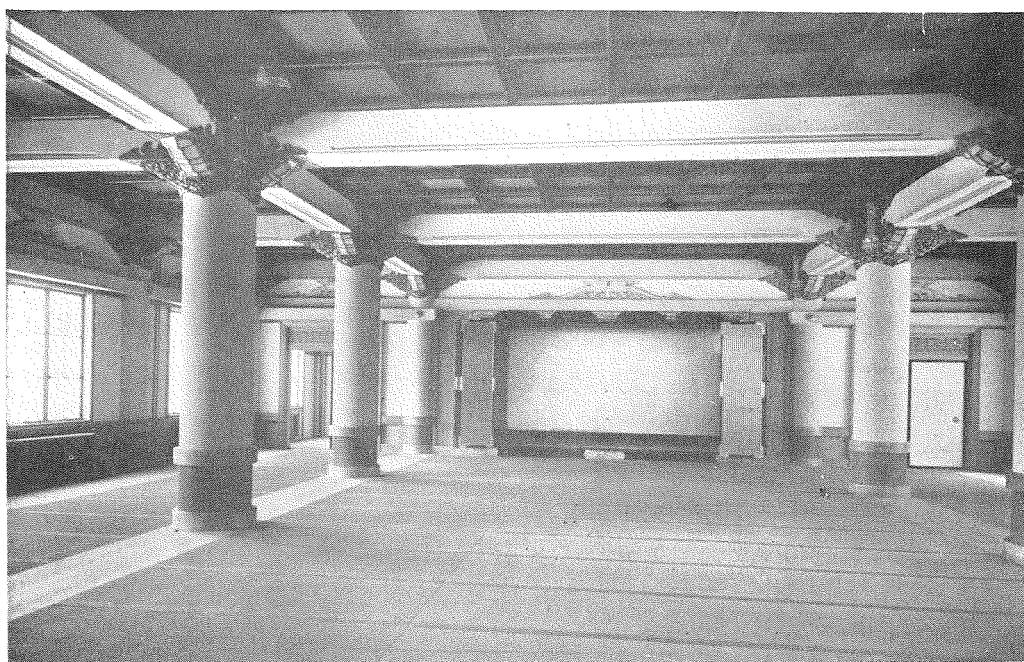
施工 松井組 松井角平

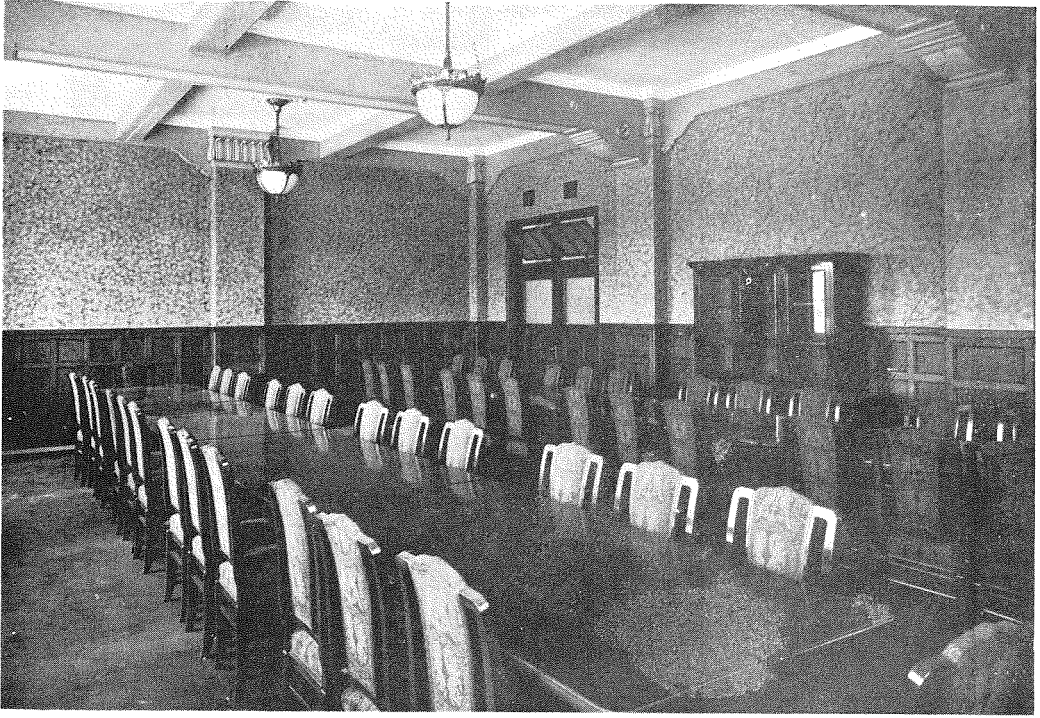
(以上)



(9) 大會議室。

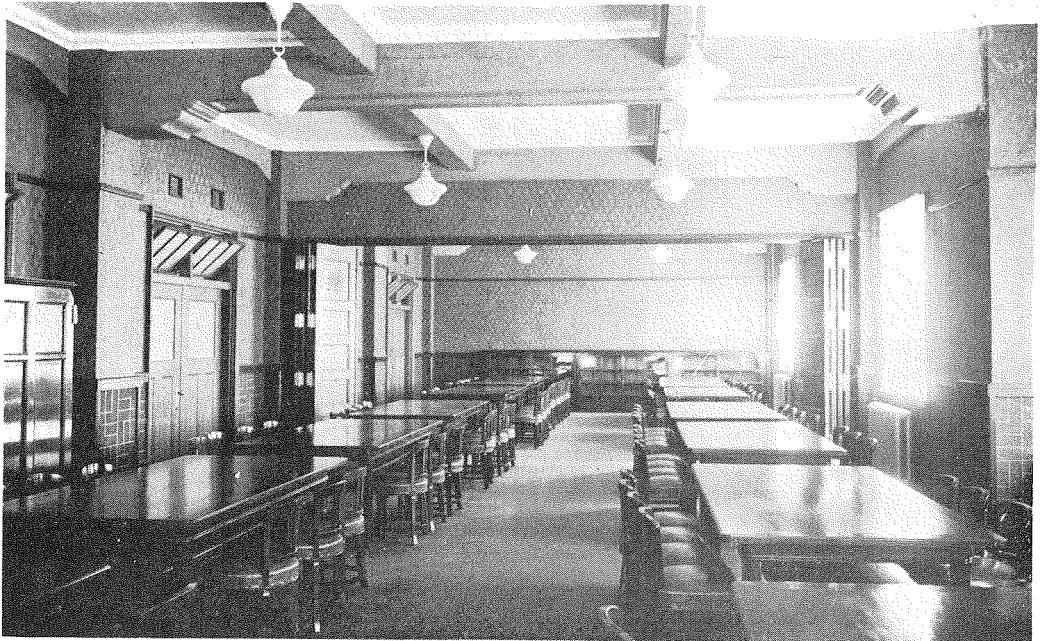
(10) 說教所。





(11) 小會議室。

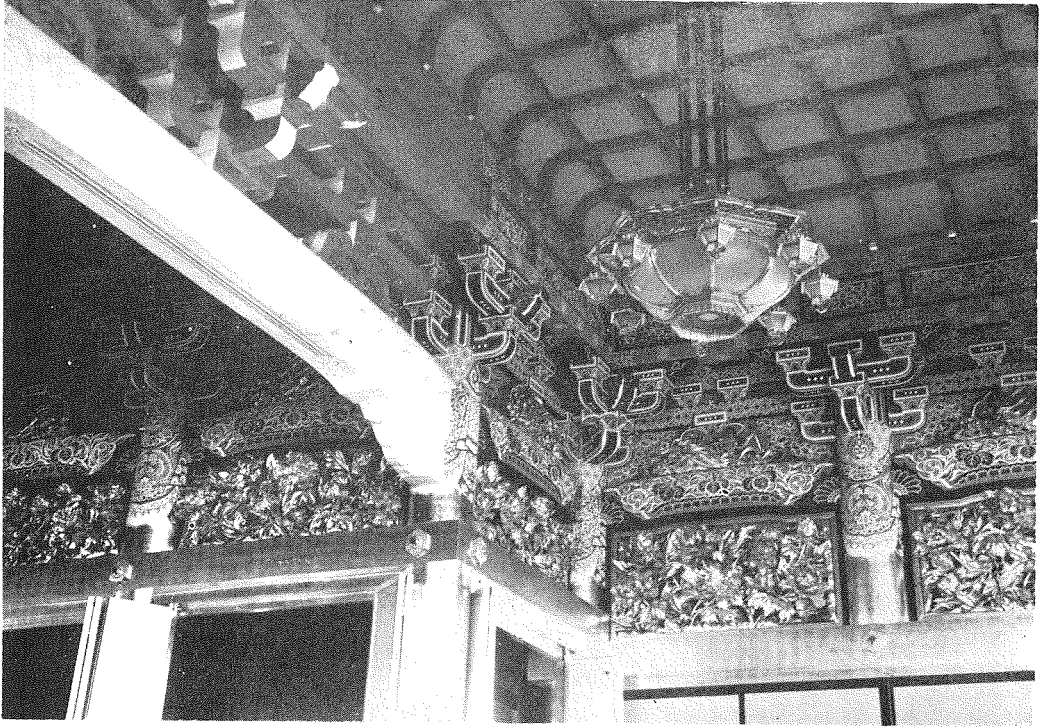
(12) 食 堂。



(13)
貴
賓
室。

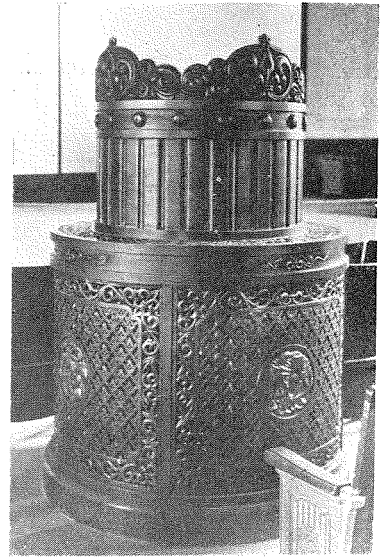
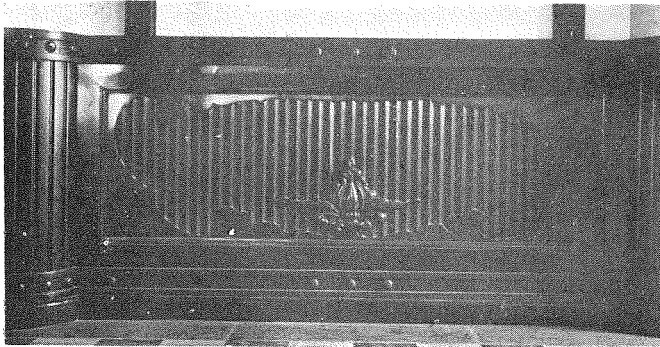


(14)
控
室。

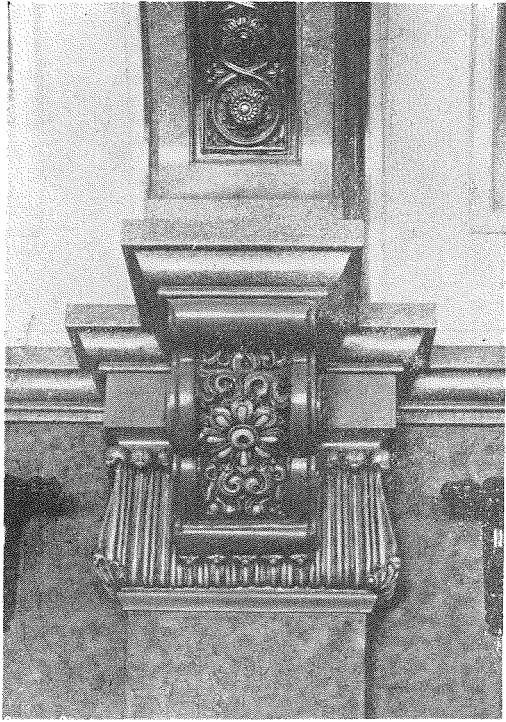


(15) 外陣天井廻り詳細。

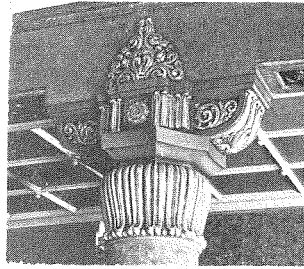
(17) 同、腰羽目。



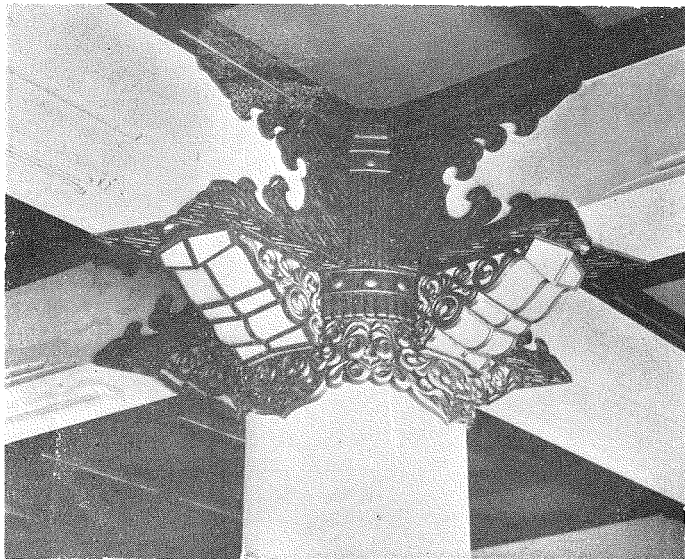
(16) 外陣裸柱下部、
電鑄アリル嵌込、内部にラ
ヂエーターを備ふ。



(8) 大會議室側柱頭部。

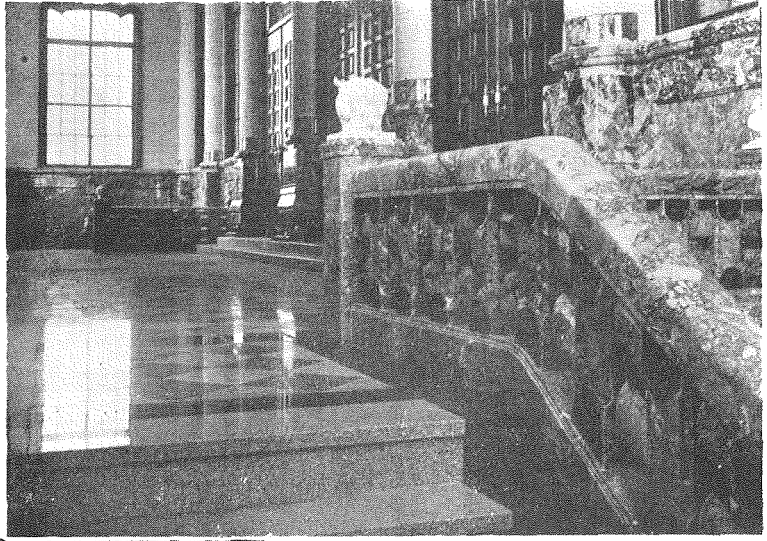


(19) 大會議室裸柱頭部。 →

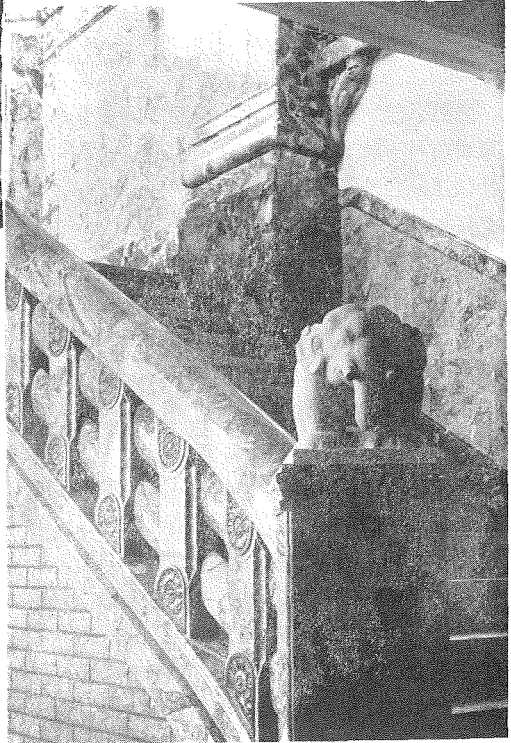


(20) 説教所柱頭部（持送り内部に電燈を設備す）

(21)
正面階段一部。



(22) 同上詳細。



(23) 同上詳細。